

足利市のあらまし

沿革

足利市は、室町幕府を開いた足利氏の発祥の地として、また、日本最古の学校「足利学校」や足利氏ゆかりの「ばん阿寺」で象徴されるように、文化と史跡のまちとして知られ、上古の時代には、関東地方の政治上の重要地として栄え、奈良時代から“織物のまち足利”の名は文献にも明らかにされています。本市は、昭和初期にかけては、特産の「足利銘仙」が全国的に名を高め、戦後に至ってからは、トリコット産業が隆盛を極め、さらに、メリヤス、婦人服などを含めた総合的な繊維産業のまちとして発展を遂げてきました。

また、一方では、プラスチック製造、一般機械器具、化学・合成樹脂、アルミ金属製品やゴム工業等が発展し、特に首都圏内の都市開発区域に指定されてからは、総合的な工業都市へと変貌しつつあります。

さらに、商業においては、中心商店街と、新たに商業集積が形成されてきた河南地域が、商業拠点としての拡大をみており、近隣都市からの衆目を集めています。

地勢

足利市は、関東平野の北方に連なる低山岳地帯と平野部の境にあって、足尾町に源を発する渡良瀬川が市の中央部を東西に流れ、北には日光の男体山、西には赤城山や浅間山を望むことができ、南には広大な関東平野がひらける豊かな自然に恵まれたまちです。

また、東京から80kmの首都圏内にあり、東と北に佐野市、西は群馬県桐生市、南は群馬県邑楽郡邑楽町・太田市に隣接し、両毛経済圏のほぼ中心部にあります。

気候は比較的温和ですが、冬から春先にかけて“赤城おろし”とか“からっ風”などと呼ばれる、上州名物の強い北西の季節風が吹くことがあります。

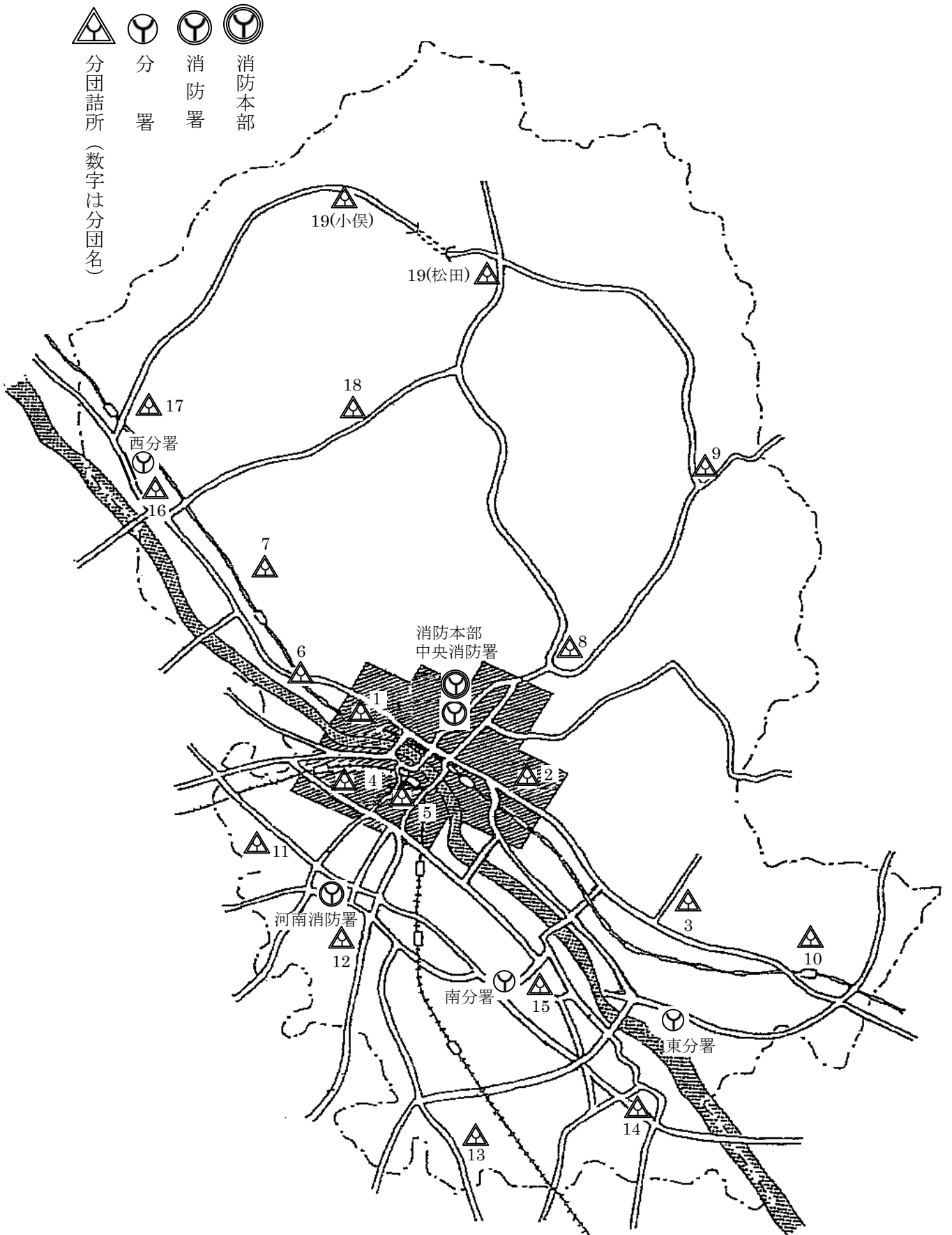
地理的条件

面積	177.82km ²	東西	18.8km
		南北	19.1km
海拔	最高 662.9m	最低	20.2m
消防本部の位置	東経 139度28分	北緯	36度21分

区分 年度	人口			世帯数	1世帯当り 人口	1km ² につき	
	計	男	女			人口	世帯数
平成20年	157,040	76,750	80,290	61,031	2.6	883	343
	3,413	1,879	1,534	1,910	1.8	19	11
平成21年	156,064	76,264	79,800	61,394	2.5	878	345
	3,559	1,945	1,614	2,005	1.8	20	11
平成22年	155,061	75,851	79,210	61,672	2.5	872	347
	3,358	1,764	1,594	1,868	1.8	19	11
平成23年	153,926	75,292	78,634	62,014	2.5	866	349
	3,195	1,640	1,555	1,766	1.8	18	10
平成24年	152,526	74,609	77,917	62,251	2.5	858	350
	3,198	1,601	1,597	1,751	1.8	18	10

上段 住民基本台帳
下段 外国人登録

足利市の消防機関配置図



足利消防のあゆみ

足利消防は、享保年間にその端を發したことが史実によって明確である。以下そのあゆみの大要は次のとおりである。

- 享保 20. はしご、水かご、手桶、鳶口等の消防裝備を保有した。
- 明治 9. 雲竜水、竜吐水を保有した。
11. 4. 各地区単独の消防組織ができた。
19. 2. 足利町消防組規則が制定され消防組が組織された。
22. 4. 1 町制が施行された。
27. 2. 9 勅令第15号をもって消防組規則が公布され足利町消防組に改組し、腕用ポンプ10台が整備された。
5. 消防組は5部編成となり定員を500名とした。
44. 蒸気ポンプ1台を購入した。
- 大正元 蒸気ポンプ1台を増車した。
10. 1. 1 市制が施行された。
- 市制施行により足利市消防組と改称し定員を445名とした。
10. 手引ガソリンポンプ1台を購入した。
11. 手引ガソリンポンプ1台を増車した。
13. 手引ガソリンポンプ1台を増車した。
- 1 ヶ年無火災につき足利警察署長から表彰された。
15. 9. 15 足利市消防組常設消防部が定員6名で開設された。
- 消防ポンプ自動車1台を初めて購入し、常備部へ配置した。
- 昭和 2. 消防組常備部に火の見櫓が建設された。火災専用電話を新設した。
3. 火災報知機新設工事を着手した。(工費22,250円)
4. 5. 4 火災報知機工事が完成した。(受信機1基・発信機65基)(市街地)
6. 4. 1 消防組常備部の定員6名を3名増員し9名とした。
- 消防ポンプ自動車1台を増車した。(常備部)
- 消防組を改組し定員445名を191名に減じた。
12. 2 財団法人大日本消防協会から優良消防組として旌旗が授与された。
8. 2. 11 県消防協会長から優良消防組として表彰された。
9. 9. 15 オート三輪自動車ポンプ1台を増車した。(第3部)
10. 消防組を改組し定員191名を186名に減じた。
12. 足利市警備係及び常備消防手の制限を制定した。
13. 4. 1 消防組常備部の定員を11名とした。
14. 3. 31 昭和14.1.24勅令第20号をもって警防団令が公布され消防組及び防護団が廃止された。
4. 1 勅令をもって警防団令が公布されたのにもない足利市警防団を組織し、団長1・副団長2・分団長6・副分団長12・部長18・班長66・団員618・工作部30・救護部30・防毒部30・計813名とした。1箇分団の定員を120名として分団長1・副分団長2・部長3・班長11・団員103名で6箇分団編成とした。
16. 3. 25 大日本警防協会から優良警防団として表彰旗が授与された。
4. 1 消防組常備部の定員を14名とした。
5. 3 消防ポンプ自動車3台を購入した。(第3・4・5分団)
8. 14 消防ポンプ自動車3台を購入した。(第1・2・6分団)
9. 1 分団の定員120名をそれぞれ133名に増員した。
17. 2. 11 県知事から成績優秀な警防団として竿頭綬を授与された。

- 昭和 17. 5. 第2・3分団詰所を新築した。(通2丁目・伊勢町)
8. 市の行政機構を改革し、警防課を新設した。
8. 14 警防団常備部用救急自動車を配置した。
10. 12 警防団本部・常備消防部庁舎を新設した。(延528㎡)
11. 2 市の行政機構を改革し、警防課を防護課と改称した。
18. 10. 5 第4分団詰所を新築した。
10. 22 防衛・土木・水道の3係を合併、警防工作課に改称し市の機構を改めた。
19. 4. 29 第1分団詰所を新築した。(通6丁目)
10. 15 第6分団詰所を新築した。(柳原町)
11. 12 第5分団詰所を新築した。(大町)
19. 第2・6分団に予備消防ポンプ自動車を配置した。
(地元有志の寄付による)
20. 第3分団消防ポンプ自動車帝都応援のため供出したので補充として1台を購入した。
21. 2. 4 警防団の改組により定員813名を383名に減じた。
3. 5 市の機構改正によって警防事務を庶務課に移した。
21. 常備部の定員14名を2名増員し、16名として強化を図り消防ポンプ自動車を4台とした。
22. 11. 3 昭和22.4.20勅令第185号をもって消防団令の公布により警防団が廃止された。勅令をもって消防団令が公布されたのにもない、即日足利市消防団を編成、組織は団長1・副団長2・分団長6・副分団長6・部長12・班長30・団員246名とし、1箇分団の定員は分団長1・副分団長1・部長2・班長5・団員41の計50名、6箇分団編成とした。更に常備部19、計322名となった。
23. 7. 24 消防組織法の制定公布により足利市消防団に改めた。
12. 1 団旗及び分団旗を新調した。
24. 6. 1 消防組織法の制定により足利市消防本部・消防署が発足した。
(人員20名)
10. 12 水槽付消防ポンプ自動車1台を購入した。
25. 火災報知機20基を増設した。
8. 1 国家消防庁長官から優良消防団として表彰された。
26. 3. 30 毛野村合併により2箇分団増設、定員を404名とした。
4. 1 消防本部の定員を30名とした。
5. 6 オート三輪消防ポンプ自動車1台を購入した。(第8分団)
27. 4. 1 消防団組織の少数精鋭主義により、定員404名を243名に減じた。
11. 1 消防ポンプ自動車1台を更新した。(第5分団)
28. 4. 1 山辺町合併により3箇分団増設、定員を333名とした。
12. 10 足利市消防賞じゅつ金条例が制定された。
29. 4. 1 消防本部の定員を32名とした。
8. 1 三重・山前村合併により4箇分団増設、定員を453名とした。
11. 1 北郷・名草村合併により3箇分団増設、定員を543名とした。
11. 22 滝島消防長が就任した。
12. 8 消防ポンプ自動車2台・オート三輪消防ポンプ自動車1台を購入した。(署増車、第6・17分団更新)
29. 火災報知機15基を増設した。
30. 5. 1 気象観測装置を設置し観測を開始した。

- 昭和 30. 8. 6 消防ポンプ自動車2台を更新した。(第2・3分団)
9. 28 消防専用中短波無線電話装置を整備した。
12. 15 消防ポンプ自動車を救急車に改造し救急業務を開始した。
30. 火災報知機20基を増設した。
31. 8. 1 消防ポンプ自動車2台を更新した。(第1・4分団)
11. 25 火災報知機36基を増設した。
32. 3. 1 国家消防本部長から優良消防機関として表彰旗が授与された。
10. 15 火災報知機受信機1基を増設した。(署)
12. 17 救急車1台を更新した。
12. 31 水槽付消防ポンプ自動車1台を増車した。
33. 4. 1 指令車1台を購入した。
11. 1 消防ポンプ自動車1台を更新した。(第7分団)
34. 4. 1 富田村合併により1箇分団増設、定員を573名とした。
8. 1 富田分遣所が開設された。
消防ポンプ自動車2台を購入した。(富田分遣所、第8分団更新)
化学消防ポンプ自動車1台を購入した。
火災報知機12基を増設した。
12. 1 消防本部の定員を52名とした。
35. 7. 1 矢場川村合併により1箇分団増設、定員を603名とした。
11. 1 火災報知機23基を増設した。
36. 5. 10 消防団の機構整備を行い、従来20箇分団編成であったが、これを
11箇分団編成に縮小し、定員333名とし、その組織は団長1・
副団長2・分団長11・副分団長11・部長11・副部長11・班
長33・団員253名とした。
7. 10 山辺分遣所が開設された。
37. 9. 28 第8分団詰所を新設した。(利保町)
10. 1 御厨町及び坂西町合併により8箇分団増設、定員を573名とした。
編成は分団総数19箇分団となり、その組織は団長1・副団長2・
分団長19・副分団長19・部長19・副部長19・班長57・団
員437名とし、1箇分団の定員は分団長1・副分団長1・部長1・
副部長1・班長3・団員23の計30名となった。
御厨分遣所が開設された。
坂西分遣所が開設された。
12. 1 消防本部の定員を91名とした。
38. 2. 6 消防ポンプ自動車2台を購入した。(御厨・坂西分遣所)
3. 20 第6分団詰所を新築した。(五十部町)
7. 31 第18分団詰所を新築した。(松田町)
11. 30 小曾根町水防倉庫を新築した。
39. 3. 17 第12分団詰所を新築した。(福居町)
4. 27 指令車を更新した。
5. 13 火災報知機60基を増設した。
火災報知機受信機2基を増設した。(御厨・坂西分遣所)
8. 1 滝島消防長が退職した。
神村消防長が就任した。
10. 31 第3分団詰所を増改築した。(鵜木町)
11. 25 坂西分遣所通信事務室を増設した。
40. 1. 25 中短波を超短波無線機に切替えた。(152.77MHZ)
4. 1 消防本部の定員を100名とした。

- 昭和 40. 5. 28 可搬式動力ポンプ1台を更新した。
6. 21 火災報知機19基を増設した。
10. 6 第15分団詰所を増改築した。(福富町)
12. 27 水槽付消防ポンプ自動車1台を更新した。
41. 7. 15 火災報知機30基を増設した。
7. 18 救急車1台を更新した。
8. 12 消防ポンプ自動車1台を更新した。(山辺分遣所)
8. 31 奥戸町水防倉庫を新築した。
10. 11 広報車を新規に配置した。(ライオンズクラブから寄付受入)
42. 2. 25 第2分団詰所を新築した。(助戸3丁目)
9. 20 消防ポンプ自動車2台を増車した。(署、第5分団)
10. 26 山辺分遣所庁舎を新築した。(165 m²)
11. 13 化学消防ポンプ自動車1台を増車した。(山辺分遣所)
43. 4. 1 消防本部の定員を105名とした。
4. 18 作業車1台を更新した。
8. 16 消防ポンプ自動車1台を更新した。(第9分団)
44. 3. 7 消防本部庁舎を新築した。(1,613.75 m²)
6. 26 救急車1台を増車し署に配置した。
8. 5 消防ポンプ自動車3台を更新した。(第2・3・7分団)
9. 7 第7分団詰所を新築した。(山下町)
45. 4. 1 消防本部の定員を110名とした。
4. 20 指令車を更新した。
7. 14 本部車を新規に配置した。(キンカ堂から寄付受入)
9. 8 第19分団詰所を新築した。(松田町)
11. 12 消防ポンプ自動車3台を更新した。(御厨分遣所、第1・15分団)
12. 17 はしご付消防ポンプ自動車を購入した。
46. 3. 31 神村消防長が退職した。
4. 1 消防本部の定員を114名とした。
5. 6 阿部消防長が就任した。
7. 17 超短波無線傍受機を分団車20台に装備した。
9. 8 消防ポンプ自動車3台を更新した。
(第8・19(松田)・19(小俣)分団)
47. 3. 31 第9分団詰所を新築した。(名草中町)
4. 1 南分署が開設された。
南分署に救急車1台を配置した。
消防本部の定員を118名とした。
28 救急車1台を増車し署に配置した。
7. 19 化学消防ポンプ自動車1台を更新した。
消防ポンプ自動車2台を更新した。(第13・17分団)
10. 23 救命ボート1台を新規に配置した。(森下孝氏から寄付受入)
12. 26 第17分団詰所を新築した。(小俣財産区から寄付受入)
48. 5. 24 社団法人日本河川協会長から水防功労団体として表彰状を受賞した。
6. 15 アルミックス防火衣118着購入し全職員に貸与した。
7. 5 救急車1台を増車し署に配置した。(栃木県農業共済から寄付受入)
8. 24 消防ポンプ自動車2台を更新した。(第11・16分団)
11. 20 消防ポンプ自動車1台を更新した。(富田分遣所)
11. 26 アルミックス防火衣573着購入し全団員に貸与した。

- 昭和 48. 12. 6 超短波無線電話機の周波数を変更した。(150. 45MHZ)
12. 7 県消防協会長から優良消防団として竿頭綬を授与された。
12. 22 第14分団詰所を新築した。(久保田町)
49. 4. 1 消防本部の定員を122名とした。
7. 25 消防ポンプ自動車2台を更新した。(第12・18分団)
9. 25 災害通報装置を分団詰所に設置した。
12. 17 第15分団詰所を改築した。(福富町)
50. 2. 12 県消防協会長から優良消防団として竿頭綬を授与された。
3. 30 坂西分遣所(西分署)庁舎を改築した。(葉鹿町)
4. 1 西分署が開設された。
西分署に救急車1台を配置した。
4. 4 救急車1台を更新した。(森下孝氏から寄付受入)
5. 12 広報車を更新した。
7. 28 消防ポンプ自動車2台を更新した。(第4・6分団)
8. 4 作業車を更新した。(足利信用金庫から寄付受入)
ホームライトポンプ1台を配置した。(足利信用金庫から寄付受入)
10. 7 消防ポンプ自動車1台を更新した。(西分署)
11. 7 気象観測機器一式を南分署に設置した。
(足利信用金庫から寄付受入)
12. 2 県消防協会長から優良消防団として竿頭綬を授与された。
12. 23 空気充てん機1台を購入した。
12. 30 伊勢町水防倉庫を大正町に移築した。
51. 3. 31 阿部消防長が退職した。
4. 1 新藤消防長が就任した。
6. 21 指令車を更新した。(東京海上火災保険㈱から寄付受入)
8. 30 消防ポンプ自動車1台を更新した。(第10分団)
9. 3 化学消防ポンプ自動車1台を更新した。
11. 5 救急車1台(更新)を南分署に配置した。
(三甲工業㈱から寄付受入)
11. 29 第16分団詰所を新築した。(葉鹿町)
12. 20 桐生市・伊勢崎佐波広域市町村圏振興整備組合・太田地区消防組合・館林地区消防組合・佐野地区広域消防組合と特殊災害消防対策相互応援協定締結
52. 1. 18 県消防協会長から優良消防団として竿頭綬を授与された。
8. 22 消防ポンプ自動車1台を更新した。(第14分団)
10. 6 救助工作車1台を購入し署に配置した。
12. 1 火災報知機を2ヵ年計画で廃止することに決定した。
53. 4. 1 消防本部の定員を126名とした。
7. 19 消防ポンプ自動車2台を更新した。(消防署、第5分団)
9. 1 本署管内の火災報知機を廃止した。(受信機3・発信機221)
10. 22 査察指導車2台を配置した。(板橋通商㈱から寄付受入)
10. 28 第13分団詰所を新築した。(小曾根町)
54. 3. 31 新藤消防長が退職した。
4. 1 高橋消防長が就任した。
消防本部の定員を130名とした。
火災報知機を全廃した。
9. 4 消防ポンプ自動車1台を更新した。(第9分団)
10. 29 水槽付消防ポンプ自動車1台を南分署に配置した。

- (日本損害保険協会から寄付受入)
- 昭和 55. 3. 6 救急車 1 台を更新した。(日本自動車工業会から寄付受入)
4. 1 消防本部の定員を 1 3 4 名とした。
6. 16 佐野市・佐野地区広域消防組合・太田地区消防組合・館林地区広域消防組合と消防相互応援協定締結
10. 4 消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(第 3 分団)
10. 7 消防訓練塔を新築した。
11. 21 防火広報車 1 台を配置した。(日本防火協会から寄付受入)
11. 22 水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(消防署)
56. 4. 1 消防本部の定員を 1 3 8 名とした。
5. 20 特殊災害消防相互応援協定を県下 1 4 消防本部と締結した。
宇都宮市・栃木地区広域行政事務組合・佐野地区広域消防組合・鹿沼地区広域行政事務組合・日光地区広域消防組合・今市市・小山市・芳賀地区広域行政事務組合・大田原地区広域消防組合・塩谷広域行政組合・黒磯那須消防組合・石橋地区消防組合・藤原町・南那須地区広域行政事務組合
10. 12 水槽付消防ポンプ自動車 1 台を山辺分遣所に配置した。
57. 2. 10 日本消防協会から優良消防団として竿頭綬を授与された。
6. 30 本部車を更新した。
10. 8 化学消防ポンプ自動車 1 台(更新)を山辺分遣所に配置した。
(アキレス㈱から寄付受入)
- 消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(第 7 分団)
11. 29 広報車 1 台を更新した。(足利市防火協会から寄付受入)
58. 2. 28 第 1 1 分団詰所を新築した。(里矢場町)
3. 7 救急車 1 台を更新した。(日本損害保険協会から寄付受入)
6. 1 栃木県知事から優良消防団として表彰旗を授与された。
10. 26 消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(第 2 分団)
59. 1. 11 第 1 9 分団(小俣)詰所を新築した。(小俣町)
3. 31 高橋消防長が退職した。
4. 1 根岸消防長が就任した。
4. 21 館林地区消防組合と水防相互応援協定締結
8. 17 バasket付はしご消防ポンプ自動車(15m級)を配置した。
(消防署)
- 消防ポンプ自動車 2 台を更新した。(第 1・15 分団)
8. 30 査察指導車 2 台を更新した。(板橋通商㈱から寄付受入)
60. 8. 26 消防ポンプ自動車 2 台を更新した。(第 8・19(松田)分団)
61. 3. 28 第 5 分団詰所を新築した。(田中町)
6. 19 作業車 1 台を更新した。(消防署)
10. 30 消防ポンプ自動車 3 台を更新した。(消防署、第 13・19(小俣)分団)
- 救急車 1 台を更新した。(南分署)
62. 3. 31 根岸消防長が退職した。
4. 1 関口消防長が就任した。
6. 4 指令車を更新した。(消防署)
63. 3. 25 化学消防ポンプ自動車 1 台及び消防ポンプ自動車 2 台を更新した。
(消防署、第 11・17 分団)
3. 30 災害通報装置(アンサーバック方式)を更新した。
空気充てん機(Y S - 7 5 型)を更新した。
4. 1 警防課通信指令室を本部通信指令課とした。

- 昭和 63. 7. 15 アルミックス防火衣等 1 3 7 着を購入し、全職員に貸与した。
アルミックス防火衣等 1 9 3 着を購入し、団本部 3 着及び各分団
1 0 着貸与した。
7. 28 携帯無線傍受機 4 1 台を購入し、正副団長及び各分団長・副分団長
へ貸与した。
8. 18 第 1 7 分団に非常用サイレンを設置した。
消防ポンプ自動車 2 台を更新した。(第 12・16 分団)
8. 31 超短波無線傍受機 2 0 台(分団車用)を更新した。
9. 1 テレホンサービス(4 1-0 0 0 0)を開局した。
9. 3 広報連絡車 1 台を購入し署に配置した。
9. 15 消防署車庫排煙設備を設置した。
10. 31 第 1 0 分団詰所を新築した。(駒場町)
- 平成元 . 2. 14 足利市消防団が特別表彰「まとい」を受賞した。
8. 10 広報連絡車 1 台を購入し南分署に配置した。
8. 31 消防ポンプ自動車 2 台を更新した。(第 4・18 分団)
9. 1 消防緊急情報システムが整備され業務を開始した。(通信指令課)
9. 16 携帯無線傍受機 1 9 台を購入し、各分団の部長へ貸与した。
9. 18 アルミックス防火衣等 1 9 0 着を購入し、各分団 10 着貸与した。
10. 24 化学消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(消防署)
12. 14 第 1 0 分団乾燥塔を新築した。
12. 18 救急車 1 台を更新した。(消防署)
12. 21 査察指導車 2 台を更新した。(株板橋から寄付受入)
2. 3. 25 第 1 2 分団詰所を新築した。(島田町)
3. 28 防火広報車を更新した。(箕輪雅雄氏から寄付受入)
3. 31 関口消防長が退職した。
4. 1 山崎消防長が就任した。
消防本部の定員を 1 4 2 名とした。
7. 17 広報連絡車 2 台を購入した。(西分署・山辺分遣所)
9. 28 携帯無線傍受機 1 9 台を購入し、各分団の副部長へ貸与した。
9. 29 アルミックス防火衣等 1 9 0 着を購入し、各分団 10 着貸与した。
9. 30 無線機(車載 2 台・携帯 3 台)を整備した。
11. 5 災害通報用サイレン 2 ヶ所を更新した。(第 14・15 分団)
11. 9 山林火災用可搬式送水装置一式を購入した。(消防署)
11. 14 消防ポンプ自動車 2 台を更新した。(第 6・10 分団)
12. 20 水槽付消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(消防署)
3. 2. 19 救急車 1 台を更新した。(日本損害保険協会から寄付受入)
2. 28 消防車両動態表示装置を整備した。
3. 15 消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(富田分遣所)
3. 25 第 1 分団詰所を新築した。(緑町 1 丁目)
3. 28 救急車 1 台を更新した。(ハッピー金属工業株から寄付受入)
4. 1 消防本部の定員を 1 4 6 名とした。
6. 27 消防ポンプ自動車 2 台を更新した。(第 5・14 分団)
8. 29 無線機(車載 3 台・携帯 3 台)を整備した。
8. 30 携帯無線傍受機 6 7 台を購入し、署幹部へ 1 0 台、各分団の班長へ
5 7 台貸与した。
9. 7 消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(第 9 分団)
9. 11 災害通報用サイレン 2 ヶ所を更新した。(第 4・11 分団)
10. 10 救助工作車Ⅱ型(資機材を含む) 1 台を更新した。(消防署)

- 平成 3. 10. 31 指令電送装置を整備した。
11. 30 桐生市と消防相互応援協定締結
12. 24 はしご付消防自動車（30m級）1台を更新した。（消防署）
4. 3. 6 第8分団詰所を新築した。（利保町）
4. 1 消防本部・署の組織改革に伴い、本部総務課に防災係を新設、消防署に係制度を導入した。
- 河川情報システムが市河川課より移管された。（防災係）
7. 20 潜水器具2組を整備した。（消防署）
8. 10 査察車1台を更新した。（予防課）
8. 21 救命用ゴムボート2艇を配置した。（アキレス株から寄付受入）
9. 30 消防無線機に全国波を整備した。
10. 30 水槽付消防ポンプ自動車1台を更新した。（消防署）
11. 10 防火広報車1台を更新した。（足利市防火協会から寄付受入）
12. 15 指揮車1台を更新した。（予防課）
5. 3. 31 山崎消防長が退職した。
4. 1 須齋消防長が就任した。
- 消防本部の職員定数を157名とした。
8. 19 デジタル警報地震計1台を設置した。（通信指令課）
9. 30 災害通報用サイレン2ヶ所を更新した。（第2・13分団）
12. 13 消防ポンプ自動車1台を更新した。（第3分団）
12. 24 第14分団詰所を新築した。（久保田町）
6. 4. 1 消防本部の職員定数を162名とした。
11. 4 消防ポンプ自動車2台を更新した。（第2・7分団）
11. 28 化学消防ポンプ自動車1台を更新した。（山辺分遣所）
12. 6 高規格救急自動車1台を購入した。（消防署）
12. 27 ファクシミリ電話機を各分団詰所に設置した。
- 第18分団詰所を新築した。（松田町）
7. 1. 30 消防ポンプ自動車1台を更新した。（第1分団）
10. 5 市内6ヶ所に防災倉庫を設置し、防災資機材を整備した。
10. 6 防災用携帯電話19台を市幹部職員に配備した。
11. 24 消防ポンプ自動車3台を更新した。（第8・15・19(松田)分団）
12. 27 第19分団（松田）詰所を新築した。（松田町）
8. 3. 18 耐震性貯水槽（100m³）をJR足利駅前に設置した。
10. 29 災害救援車（トイレカー）を購入した。
12. 4 消防ポンプ自動車4台を更新した。（第11・13・17・19(小俣)分団）
12. 24 富田分遣所を改築した。（駒場町）
12. 26 第6分団詰所を新築した。（五十部町）
- 水槽付消防ポンプ自動車1台を更新した。（富田分遣所）
9. 2. 28 地域防災計画改訂事業の一環として、防災アセスメント調査及び地域別防災カルテを作成した。
8. 19 エアーテント2基を配備した。（アキレス株から寄付受入）
9. 7 足利市総合防災訓練を実施した。
10. 14 携帯無線傍受機89台を更新し、署幹部へ10台、各分団幹部へ79台貸与した。
11. 25 消防ポンプ自動車4台を更新した。（第4・12・16・18分団）
12. 19 第15分団詰所を新築した。（福富町）
10. 3. 27 地域防災計画の全面改訂を実施するとともに、防災ガイドマップを作成した。

- 平成 10. 3. 31 須齋消防長が退職した。
4. 1 寺田消防長が就任した。
10. 24 携帯 1 1 9 番通報受付転送装置を設置した。
11. 30 消防団旗を更新した。
12. 15 第 2 分団詰所を新築した。(助戸 3 丁目)
11. 3. 10 消防職員用防火衣一式を更新した。
3. 30 (仮称) 河南消防署建設に伴う実施設計が完了した。
3. 31 寺田消防長が退職した。
4. 1 小島消防長が就任した。
8. 10 軽可搬ポンプ 1 台が交付された。
(足利市婦人消防隊全国大会出場につき日本消防協会より交付)
8. 29 栃木県・足利市総合防災訓練を実施した。
9. 30 消防団員用防火衣一式 5 7 4 着を更新した。
12. 14 化学消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(西分署)
12. 2. 15 県防災行政ネットワークシステムを整備した。(市役所)
3. 14 第 3 分団詰所を新築した。(八柵町)
3. 31 小島消防長が退職した。
4. 1 倉沼消防長が就任した。
消防本部の職員定数を 1 7 0 名とした。
7. 28 作業車 1 台を更新した。(消防署)
8. 30 消防無線市波にトーンスケルチ装置を付加した。
(仮称) 河南消防署庁舎を新築した。(1, 979. 0 m²)
10. 31 指令車 1 台を更新した。(消防署)
12. 25 消防無線機に全国波第 2・第 3 波を整備した。
12. 27 高規格救急自動車 1 台を購入し、(仮称) 河南消防署に配置した。
13. 2. 28 第 1 7 分団詰所を新築した。(小俣町)
3. 31 倉沼消防長が退職した。
4. 1 都筑消防長が就任した。
河南消防署が開設された。
10. 5 広報連絡車 1 台を更新した。(富田分遣所)
12. 7 化学消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(中央消防署)
14. 3. 5 第 4 分団詰所を新築した。(八幡町 3 丁目)
3. 12 高規格救急自動車 1 台を更新した。(西分署)
3. 26 河南消防署訓練塔が完成した。
12. 31 無線サイレン吹鳴装置一式を更新した。(通信指令課、消防団詰所)
15. 1. 20 消防ポンプ自動車 1 台を更新した。(中央消防署)
2. 7 日本消防協会から優良消防団として表彰旗が授与された。
3. 26 広報連絡車 1 台を更新した。(中央消防署)
7. 23 高規格救急車 1 台を更新した。(南分署)
16. 3. 31 都筑消防長が退職した。
4. 1 山本消防長が就任した。
10. 25 新潟県中越地震に伴う緊急消防援助隊派遣 (マグニチュード 6. 8)
新潟県 10. 25 ~ 28 救助部隊 10 名
17. 1. 27 高規格救急自動車 1 台を購入した。(東分署)
2. 28 (仮称) 東分署を新築した。(644. 90 m²)
3. 31 高規格救急自動車 1 台を更新した。(中央消防署)
4. 1 消防本部の職員定数を 1 8 0 名とした。
東分署が開設された。

- 平成 17. 12. 20 査察車 1 台を更新した。(予防課)
18. 3. 31 山本消防長が退職した。
4. 1 石川消防長が就任した。
高機能通信指令システム (II 型) の運用を開始した。
消防・防災情報メール配信を開始した。
19. 3. 9 屈折はしご付消防自動車 (25m 級) 1 台を購入した。(中央消防署)
3. 15 第 7 分団詰所を新築した。(山下町)
3. 30 地域防災計画改訂の一環として、防災アセスメント調査を実施した。
3. 31 石川消防長が退職した。
4. 1 村田消防長が就任した。
10. 2 広報連絡車 1 台を更新した。(南分署)
11. 1 救急情報テレホンサービス (病院案内) を開始した。(0284-72-0099)
12. 19 水槽付消防ポンプ自動車を更新した。(南分署)
20. 3. 28 地域防災計画の改訂及び防災マップの作成を実施した。
12. 26 救助工作車 II 型 (資機材を含む) 1 台を更新した。(河南消防署)
21. 3. 31 村田消防長が退職した。
4. 1 山崎消防長が就任した。
8. 24 訓練指導車が交付された。(日本宝くじ協会より交付)
9. 2 消防ポンプ自動車 3 台を更新した。(第 6・10・14 分団)
9. 9 携帯電話等 1 1 9 通報位置通知装置を設置した。
9. 17 指揮車 1 台を更新した。(予防課)
10. 16 広報車 2 台を更新した。(西分署・河南消防署)
22. 2. 16 防災広報車が交付された。(日本消防協会より交付)
3. 19 消防職員用防火衣 (上下式) 一式の導入を開始した。
9. 29 広報車 1 台を更新した。(予防課)
23. 3. 11 東北地方太平洋沖地震に伴う緊急消防援助隊派遣
(マグニチュード 9.0 / 足利市震度 5 強)
岩手県 3. 11 ~ 25 消火部隊 8 隊 38 名
福島県 3. 26 ~ 6. 6 救急部隊 10 隊 30 名
3. 31 山崎消防長が退職した。
4. 1 森田消防長が就任した。
消防本部の組織改革に伴い、本部総務課に警防担当を新設、
警防課を廃止した。
24. 2. 14 指揮車 1 台を更新した。(河南消防署)
2. 17 消防ポンプ自動車 2 台を更新した。(第 5・9 分団)
3. 2 高規格救急自動車 1 台を更新した。(河南消防署)
3. 26 第 9 分団詰所を新築した。(名草中町)